

## 「こいしい」

～体験から生まれる素敵な言葉～

学校長 梅田 比奈子

新年度が始まって、2ヶ月。6年生の新潟修学旅行、4年生の上郷宿泊体験。そして、2年生、1年生の遠足が終わりました。行き先、体験する内容、出会い・・・学年によって、その内容は異なりますが、一人ひとりにとって、素敵な学びになったと思います。そして、それは、具体的な体験や出会いから生まれたものです。

6年生が行った、新潟修学旅行。出発前から、何度も話し合いをし、自分たちの目当てをもって向かった新潟。菱ヶ岳の斜面は、ゴンドラで上ると、一面の雪で歓声があがり、頂上を目指します。雪の上を登っていくのは、土と違った足の使い方をします。グループごとに、滑ったり、つかまったりしながら、声を掛け合い、進んでいきました。そして、全員が頂上まで行くことができたのです。頂上から見る景色は、本当に素晴らしいものでした。子どもたちの思いも充実していたことがその表情から伝わってきました。

次の日は、田んぼでの田植え。土に足をとられたり、転んでしまったりしましたが、全体を見て、早く終わった人は残っている場所を進んで手伝っていました。失敗してしまうこともありましたが、師匠から指導を受けながら、がんばっている姿が印象的でした。

「団結力を磨く。」これが、6年生が修学旅行で目指したことです。なかまと一緒だから、できたことがたくさんあったと思います。そして、一人ひとりの意識が、6年生の確かな行動に結びついていったのだと思います。

二日目の民泊では、民泊先の方が、本当の家族のように暖かく接してくれ、とても豊かな関わりや楽しい時間をもてたことが、お別れの時にそれぞれのお家の方と話している様子から、伝わってきました。私にも、民泊先でしたことをうれしそうに話してくれました。「話したい。」その思いが、たくさん伝わってきて、子どもたちが本当に素晴らしい時間をもてたことが、自分のことのようにうれしく思えました。ほくほく線のホームまで、見送りしてくださった方は、「瀬ヶ崎小学校の子どもたちは、本当にいい子で、進んでお手伝いもしてくれ、助かりました。私たちもとても楽しい時間をすごせました。」とおっしゃってくださいました。そして、子どもたちからつぶやかれたのが「新潟がこいしい。」という言葉です。



「こいしい。」この言葉を聞いたとき、私の心は震えました。今、情報化社会の中で、人と人との直接の関わりが薄れていると言われていています。そして、子どもたちの話す言葉も単語や直接的な言葉が多くなっているように思います。そんな中で「新潟がこいしい」という言葉は、本当に多くのことを私に伝えてくれました。「新潟で出会った自然にまた合いたい。」「やさしくしてくれた民泊先の方々との離れたくない。まだまだ一緒にいたい。」「この仲間と行ったこの旅行を忘れたくない。」「・・・」。豊かな体験から発せられる言葉は、豊かな意味をもち、それが豊かな学びにもつながっていくということを6年生の姿から改めて感じました。

他の学年の子どもたちも、様々な体験の中で、素敵な言葉をたくさん聞かせてくれます。それを育み、つなぎ、紡いでいきたいと思っています。